整列を崩すな

系列校が後ろに控える

明滅する陽で昼に身を焼き

永訣は夜

経血の朝

AM6時30分のラジオの慟哭は

J.S.ミルを退ける

性別不明の自死遺体に捧げられた

セーレン・キルケゴールの「病」は

蹄鉄を履かされた子どもたちを蝕み

連綿と続く整列の波から

選別された「病」として一部の子どもたちをはじき出し

停電で朝の闇を抱いた教室へ追い込み

軽蔑の視線を互いに浴びせしめる

『冷血』で読書感想文を書いたその中の一人が

「テル・ケル」の精神を叫び説きながら手にしたランボ うの

「永遠」を振り回し、教室内を踊り回る

洗練とは程遠いその身振りは

炎熱下の校庭を彩る体操の関節を

剔抉して溶解させ、室内の黒板を「これは

ペンです」と、あらゆる方角から英語で書かれた文で埋め尽くさせる

エミネムがその教室内で歌い踊られているころ

整列が教室内に浸潤し「これは

ペンです」が消され、室内の身振りは

赤面に戻る

弁別が教室を裂き

惜別が黒板に宿る

経血は朝

永訣の夜

凄絶な自死の記憶を宿した校庭を

明滅する陽が今日も焼く

銑鉄のごとく高炉から生み出され続ける子どもたちは

諦念を体内に押し屈め、なけなしの

永遠を追い求めながら今日も

選別から逃れるために整列する